



先生たちも学んでいます

昨日8日(月)は、校内研修で、「話し合いの仕方」を職員全員で学び合いました。本校では、道徳教育を基盤に据えた研究に取り組んでいます。その道徳教育の中心となるのが特別活動と道徳科の授業です。今回は特別活動の中の「学級活動」に取り組みました。学級活動も、みんなで話し合っ決めて、決まったことに向かって役割を分担しながら実践する「内容(1)」、生活や学習上のめあてを小集団の思考を生かして自分できめて実践する「内容(2)」、これまでの自分の材料を生かして、これからやりたい自分に向かってめあてを立てて実践する内容(3)と3つあります。これらは、子供たちの生活改善にとっても役立ちますし、学級経営上とても大切な機能を果たします。



昨日は、学級活動内容(1)いわゆる「学級会」を先生たちが子供役になったり先生役になったり司会グループになったりしながら、よりよい話し合いの仕方について意見や感想を出し合い学びを深めました。このことが子供たちに還元され、学級や学校の豊かな生活や文化創りに生かされていくのです。本校の校内研修は、「明日から即実践できる!」という実のある研修だと自負しています。これからの教育は、学力向上や学校力向上がますます叫ばれるようになり、その土台となる学級経営力の向上も強く求められています。学級会のように、子供たちの自治的風土が生まれることによって、学力向上の下支えと成り得るし、学校力を後押しする子供たちの自己有用感の醸成にもつながると考えています。

学校の安全を守る 主事の先生

子供たちが快適に勉学に励めるように校舎を整備したり、不具合や故障があった場合は修繕したり、業者に依頼したりします。学校では、危険箇所を事前に把握するために、教職員が分担して、安全点検を行っています。月に一回、校舎等内外の施設・設備を点検し、危険箇所を事前に発見しています。それらの報告を受け、真っ先に危険箇所の補修等を行っているのが、今年度から赴任した主事の嶋山(しぎやま) 文隆先生です。右上は、作業中の嶋山先生の様子です。これは木の下から生えてくる枝を刈っている様子で、こうすることによって木に養分がたって元気になるそうです。校舎内ほぼ全ての木の手入れをしてくれました。本校の校舎も設備が古くなってきているので、修理する場所も増えてきています。主事の先生の仕事は、防災・衛生管理の観点からも学校にとって、なくてはならない存在なのです。

